

出題のねらい

【1】原始古代、社会の分野

2～3世紀、邪馬台国の主導のもと、小国家が統合されていく時代の社会について、基本的な知識を問いました。

【2】近世、政治の分野

享保の改革から寛政の改革に至る幕政改革の歴史的な流れと、そこで実施された諸政策の目的が理解できているかどうかを問いました。

【3】近代、文化の分野

明治時代における高等教育を取り上げ、近代文化史の基礎知識を問いました。

【1】

【解答】(38点)

- | | |
|--|---------|
| (1) a(お) b(あ) c(え) | (各3点×3) |
| (2) 『漢書』地理志 | (3点) |
| (3) 太占(の法) | (3点) |
| (4) d男子 e卑弥呼 f親魏倭王 g金印 | (各3点×4) |
| (5) 呪術すなわち「うらない」「まじない」など。 | (4点) |
| (6) 景初2年(238)、魏が公孫氏を滅ぼして楽浪郡・帯方郡を支配下に置いたことにより、日本から魏への遣使が容易になったため。 | (4点) |
| (7) (う) | (3点) |

【解説】

「魏志倭人伝」の記述を取り上げました。そこには、2～3世紀の日本の社会や習俗をはじめ、邪馬台国やその連合を構成する小国の政治組織などのことが記されています。邪馬台国の社会には大人・下戸・生口の身分や妻子・門戸・宗族などの組織があり、刑法や租税の制度もあったようです。また大倭や一大率・卑奴母離などの支配機構が整備されつつあったこともわかります。その一方で、卑弥呼の呪術能力が最も重視されていることも事実で、邪馬台国が国家へと発展する途上段階にあることがわかります。

邪馬台国の位置については、畿内説と九州説とがありますが、それは「魏志倭人伝」に記された方位・里程などをどのように解するかという立場の相違によります。この議論は、3世紀前期の日本の政治的統一が、北九州を中心とした地域的なものであったか、あるいは近畿以西の西日本全域に及ぶものであったかという問題に関わるものです。

一般入試／日本史(中期)

[2]

【解答】(42点)

- | | | | | |
|-----|------------|----------|--------|---------|
| (1) | a 徳川吉宗 | b 検見 | c 定免 | |
| | d 目安箱 | e 公事方御定書 | f 田沼意次 | |
| | g 株仲間 | h 印旛沼 | | (各3点×8) |
| (2) | 柳沢吉保 | | | (3点) |
| (3) | オランダ・清(中国) | | | (各3点×2) |
| (4) | 囲米・松平定信 | | | (各3点×2) |
| (5) | 上げ米(上米) | | | (3点) |

【解説】

近世の政治に関する問題です。この問題では、文章Aと史料Bを組み合わせることで、享保の改革から寛政の改革に至る幕政改革の歴史的な流れと、諸政策の目的が理解できているかどうかを問いました。

幕府政治は財政面から破綻を始めますが、それに対して徳川吉宗による享保の改革では、農業の振興を重視して米価の安定を目指します。しかし、それでも対応はできなくなり、田沼意次は商業資本に依存することで幕府財政の立て直しを図りました。文章Aは、ここまでの流れを説明するものです。

一方の史料Bは、松平定信による寛政の改革の一環で実施された囲米の内容を示すものです。定信は、商人との癒着が著しかった田沼意次による政治を批判する立場から、祖父である徳川吉宗による農業振興に重きを置いた「享保の御例」に理想を求めます。しかし、もはや時代にそぐわず、世論を味方につけることはできませんでした。このように、時期を追うごとに幕府の対応が遅れ気味になっていくことを、諸政策の成功・失敗と関連付けながら理解しておくことが重要です。

[3]

【解答】(20点)

- | | | |
|----------|--------|----------|
| a 親鸞 | b 蕃書調所 | c 種痘所 |
| d 適塾 | e 福沢諭吉 | f 昌平坂学問所 |
| g 札幌農 | h 森有礼 | i 新島襄 |
| j 東京専門学校 | | |
| | | (各2点×10) |

【解説】

本学の母体である大谷裁縫女学校設立の話題をきっかけとして、明治時代における高等教育を取り上げました。

a 親鸞は鎌倉仏教、b 蕃書調所、c 種痘所、d 適塾、f 昌平坂学問所は江戸時代末期の事項ですが、近代社会との関連を理解する上で重要です。

e 福沢諭吉、h 森有礼、i 新島襄、そしてj 東京専門学校の設立者大隈重信など、近代の教育史に大きな足跡を残した人物を取り上げました。

問題では、大学の近代初期の様相のみを話題としましたが、大学の果たす機能は時代状況に応じて変化しています。彼らの事績が、どのような時代状況のもとでなされたものか、個別事例に注目しながら理解していくことが大切です。